



# Red Hat Enterprise Linux 5

## 5.8 リリースノート

Red Hat Enterprise Linux 5.8 リリースノート

エディション 8



# Red Hat Enterprise Linux 5 5.8 リリースノート

---

Red Hat Enterprise Linux 5.8 リリースノート  
エディション 8

Landmann  
rlandmann@redhat.com

## 法律上の通知

Copyright © 2012 Red Hat, Inc.

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](#). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

Red Hat Enterprise Linux のマイナーリリースは、個々の拡張機能、セキュリティ、バグ修正エラータの集成です。Red Hat Enterprise Linux 5.8 リリースノートには、このマイナーリリースで Red Hat Enterprise Linux 5 オペレーティングシステムと付属のアプリケーションに加えられた主要な変更点を記載しています。このマイナーリリースにおけるすべての変更点についての詳しい説明は、テクニカルノート を参照してください。

## 目次

前書き .....	2
第1章 インストール .....	3
第2章 カーネル .....	4
2.1. カーネルプラットフォームの強化	4
2.2. カーネルの一般機能	4
第3章 デバイスドライバー .....	6
3.1. ストレージドライバー	6
3.2. ネットワークドライバー	7
3.3. グラフィックスドライバー	8
第4章 ファイルシステムおよびストレージの管理 .....	9
第5章 認証と相互運用性 .....	10
第6章 エンタイトルメント .....	11
第7章 セキュリティ、標準、認定 .....	12
第8章 コンパイラーとツール .....	13
第9章 クラスタ化と高可用性 .....	14
第10章 仮想化 .....	15
10.1. XEN	15
10.2. KVM	15
10.3. SPICE	15
第11章 全般的な更新 .....	16
付録A 改訂履歴 .....	18

## 前書き

本リリースノートは、Red Hat Enterprise Linux 5.8 で実装された改良点と追加機能を俯瞰的に説明しています。5.8 の更新で Red Hat Enterprise Linux に加えられたすべての変更点についての詳しい説明は、[テクニカルノート](#) を参照してください。



### 注記

Red Hat Enterprise Linux 5.8 リリースノートの最新バージョンは、[オンライン版のリリースノート](#) を参照してください。

## 第1章 インストール

### IPoIB を介したインストール

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、IP over Infiniband (IPoIB) インターフェースを介したインストールをサポートしています。

## 第2章 カーネル

### 2.1. カーネルプラットフォームの強化

#### Power Management Quality of Service

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、Power Management Quality Of Service (**pm\_qos**) インフラストラクチャーのサポートが追加されました。**pm\_qos** インターフェースは、現在サポートされている **pm\_qos** パラメーター (**cpu\_dma\_latency**、**network\_latency**、**network\_throughput**) のいずれか 1 つにドライバー、サブシステム、ユーザースペースアプリケーションのパフォーマンス期待値を登録するためのカーネルおよびユーザーモードのインターフェースを提供します。詳しく

は、`/usr/share/doc/kernel-`

`doc-<VERSION>/Documentation/power/pm_qos_interface.txt` を参照してください。

#### PCIe 3.0 サポート

Red Hat Enterprise Linux 5.8 は、ID-based Ordering (ID ベースの順序付け)、OBFF (Optimized Buffer Flush/Fill) の有効化/無効化のサポート、Latency Tolerance Reporting の有効化/無効化のサポートを追加することにより、PCIe 3.0 の全機能のサポートを提供します。

#### ALSA HD Audio サポート

Intel の次期 Platform Controller Hub での ALSA HD Audio サポートが追加されました。

#### デバイス ID の追加

デバイス ID が追加され、Intel の次期 Platform Controller Hub で SATA、SMBus、USB、Audio、Watchdog、I2C のドライバーを完全にサポートするようになりました。

#### StarTech PEX1P

StarTech 1 Port PCI Express Parallel Port デバイスのサポートが追加されました。

#### configure-pe RTAS コール

PowerPC プラットフォーム上での **configure-pe** RTAS (RunTime Abstraction Services) コールのサポートが追加されました。

#### JSM ドライバーの更新

JSM ドライバーが更新され、IBM POWER7 システムで Bell2 (PLX チップ搭載) 2 ポートアダプターをサポートするようになりました。また、JSM ドライバーに EEH サポートが追加されました。

### 2.2. カーネルの一般機能

#### RSS および swap サイズの情報

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、`/proc/sysvipc/shm` ファイル (使用中の共有メモリー一覧を提供するファイル) に RSS (Resident Set Size—メモリーに常駐するプロセスの量) と swap サイズの情報が追加されました。

#### OProfile サポート

全コアイベント (Precise Event-Based Sampling を除く) をサポートすることにより、Intel の Sandy Bridge プラットフォーム上で OProfile プロファイラーをサポートするようになりました。

#### Wacom Bamboo MTE-450A



Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、**Wacom Bamboo MTE-450A** タブレットのサポートが追加されました。

### X-keys Jog および Shuttle Pro

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、**X-keys Jog and Shuttle Pro** デバイスのサポートが追加されました。

### あらゆる速度の NIC に対応したボンディングモジュール

カーネル内のボンディングモジュールは、任意のネットワークインターエースコントローラーの現在のリンク速度をレポートするようになりました。以前、ボンディングモジュールは 10/100/1000/10000 の速度のみをレポートしていました。この変更により、9 Gbs などの非標準の速度を使用するブレードエングロージャ環境のリンク速度が正確にレポートされるようになりました。

### シリアルインターフェースの許容最大数

**CONFIG\_SERIAL\_8250\_NR\_UARTS** パラメーターは、カーネルがサポートするシリアルインターフェースの最大数を定義します。Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、32 以上 (最大 64) のコンソール接続に対応したシステムの **CONFIG\_SERIAL\_8250\_NR\_UARTS** パラメーターの値が **64** に増えました。

### /etc/kdump.conf の blacklist オプション

Kdump の設定で **blacklist** オプションを使用できるようになりました。このオプションは、モジュールが **initramfs** にロードされるのを防ぎます。詳しくは、**kdump.conf(5)** の man ページを参照してください。

### Kdump initrd における fnic および iscsi のサポート

Kdump の初期 RAM ディスク (**initrd**) に **fnic** および **iscsi** のドライバーのサポートが追加されました。

### Xen HVM ゲスト上での Kdump

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、Xen HVM ゲスト上の Kdump がテクノロジープレビューとして有効化されました。サポートされている実装は、Intel CPU 搭載の Intel 64 Hypervisor を使用したエミュレート (IDE) ディスクに対するローカルダンプ実行のみです。ダンプのターゲットは、**/etc/kdump.conf** ファイル内で指定する必要がある点に注意してください。

## 第3章 デバイスドライバー

### 3.1. ストレージドライバー

- IBM Power Linux RAID SCSI HBA 用の **ipr** が更新されて、SAS VRAID 機能が有効化され、新規アダプターの定義が追加されました。
- **megaraid** ドライバーがバージョン 5.40 に更新され、FastPath I/O が劣化した RAID 1 に対応するよう修正されました。
- Panther Point PCH ドライバーが更新され、Intel Panther Point Device ID 用に AHCI (Advanced Host Controller Interface) モードが追加されました。
- **qla2xxx** 4G および 8G ドライバーのファームウェアが、バージョン 5.06.01 に更新されました。
- QLogic Fibre Channel HBA 用の **qla2xxx** ドライバーがバージョン 8.03.07.09.05.08-k に更新され、障害発生時にダンプ (ミニダンプ) をキャプチャーする ISP82xx のサポートを提供するようになりました。
- **qla4xxx** ドライバーがバージョン 5.02.04.00.05.08-d0 に更新されました。
- Emulex Fibre Channel Host Bus Adapter 用の **lpfc** ドライバーがバージョン 8.2.0.108.1p に更新されました。
- **cciss** ドライバーが最新バージョンに更新されて、CCISS シンプルモードのサポートを提供するコマンドラインスイッチが追加されました
- ServerEngines BladeEngine 2 Open iSCSI デバイス用の **be2iscsi** ドライバーが更新され、**pci\_disable** デバイスオプションとシャットダウンルーチンをサポートするようになりました。
- Broadcom NetXtreme II iSCSI 用の **bnx2i** ドライバーがバージョン 2.7.0.3 に更新されました。
- カーネルマルチパスドライバーが更新され、詳細な SCSI I/O エラーが追加されました。
- **bfa** ファームウェアがバージョン 3.0.2.2 に更新されました。
- **bfa** ドライバーが更新され、以下の点が強化されました。
  - フラッシュパーティション設定のサポート
  - **fcport** 統計の収集およびリセットのサポート
  - I/O プロファイリングのサポート
  - RME 割り込み処理の更新
  - FC トランスポートの非同期イベント通知のサポート
  - PHYsical Layer Control (PHY) クエリのサポート
  - Host Bus Adapters (HBA) 診断のサポート
  - Small Form Factor (SFP) 情報取得のサポート

- CEE 情報および統計クエリのサポート
- Fabric Assigned Address (FAA) のサポート
- ドライバー/fw の統計収集および アダプター/ioc の有効化/無効化操作実行のサポート
- **mpt2sas** ドライバーがバージョン 09.100.00.00 に更新され、お客様固有のブランディングのサポートが追加されました。
- **mptsas** ドライバーがバージョン 3.04.20rh に更新されました。
- **iscsi** ドライバーが更新され、ステートマシンインターフェースにタイプセーフが追加されました。また、Intel の次期チップセットのサポートも追加されました。
- 更新された iscsi-initiator-utils パッケージの一部として **uIP** ドライバーがバージョン 0.7.0.12 に更新されました。
- **megaraid\_sas** ドライバーがバージョン 5.40-rh1 に更新されました。

## 3.2. ネットワークドライバー

- **bnx2x** ドライバーファームウェアがバージョン 7.0.23 に更新され、新たな Broadcom 578xx チップをサポートするようになりました。
- **bnx2x** ドライバーがバージョン 1.70.x に更新されました。
- **bnx2i** ドライバーがバージョン 2.7.0.3+ に更新されました。
- **bnx2** ドライバーがバージョン 2.1.11 に更新されました。
- **cnic** ドライバーがバージョン 2.5.3+ に更新されました。
- Chelsio T3 ファミリーのネットワークデバイス用の **cxgb3** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新されました。
- Chelsio Terminator4 10G Unified Wire Network Controller 用の **cxgb4** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新されました。
- **iw\_cxgb4** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新されました。
- **netxen\_nic** ドライバーがバージョン 4.0.77 に更新され、VLAN RX HW アクセラレーションのサポートが追加されました。
- Broadcom Tigon3 Ethernet デバイス用の **tg3** ドライバーがバージョン 3.119 に更新されました。
- Intel 10 Gigabit PCI Express ネットワークデバイス用の **ixgbe** ドライバーがアップストリームバージョン 3.4.8-k に更新されました。
- **ixgbev** ドライバーがアップストリームバージョン 2.1.0-k に更新されました。
- **igbvf** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新されました。
- Intel Gigabit Ethernet Adapter 用の **igb** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新され、エントロピーのサポートが追加されました。

- Intel 82563/6/7、82571/2/3/4/7/8/9、および 82583 PCI-E ファミリーのコントローラー用の **e1000e** ドライバーがバージョン 1.4.4 に更新されました。
- Intel PRO/1000 PCI and PCI-X ファミリーのアダプター用の **e1000** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新されました。
- **bna** ドライバーがバージョン 3.0.2.2 に更新され、Brocade 1860 AnyIO Fabric Adapter をサポートするようになりました。
- **qlge** ドライバーがバージョン 1.00.00.29 に更新されました。
- HP NC-Series QLogic 10 Gigabit Server Adapter 用の **qlcnic** ドライバーがバージョン 5.0.18 に更新されました。
- ServerEngines BladeEngine2 10Gbps ネットワークデバイス用の **be2net** ドライバーが最新のアップストリームバージョンに更新されました。
- Cisco 10G Ethernet デバイス用の **enic** ドライバーがバージョン 2.1.1.24 に更新されました。
- **nbd** ドライバーが更新され、I/O 操作にユーザーが設定可能なタイムアウト (**NBD\_SET\_TIMEOUT**) が追加されました。

### 3.3. グラフィックスドライバー

- Intel の **i810** グラフィックスドライバー (xorg-x11-drv-i810 パッケージで提供) が更新され、Ironlake 内蔵グラフィックスを統合した Westmere チップセットのさまざまなバグが修正されました。
- Matrox **mga** ビデオカードドライバーが更新され、ServerEngines Pilot 3 (Kronos 3) チップで高解像度がサポートされるようになりました。

## 第4章 ファイルシステムおよびストレージの管理

### CLVM ミラー化ボリュームの拡張の `--nosync` オプション

クラスター化 LVM には、ミラー化論理ボリュームを拡張するための新たな `--nosync` オプションが追加されました。`--nosync` オプションを指定すると、クラスター化されたミラー化ボリュームを拡張しても、拡張後にボリュームは同期されないため、リソースを多大に消費する、空データの同期をスキップすることになります。

### ext4 の自動サイズ変更

`-r/--resizefs` オプションを指定して `lvextend` コマンドを実行すると、ext4 ファイルシステムが自動的にリサイズされます。`resize2fs` で手動のサイズ変更を行う必要はなくなりました。

### NFS クライアントによる非セキュアポートの使用

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、NFS クライアントで非セキュアポート (1024 以上) を使用できるようになりました。

### アクティブなマルチパスデバイスは LVM によるスキャンの対象外

LVM は、マルチパスのメンバーデバイス (アクティブなマルチパスデバイスの配下のパス) のスキャンは行わず、最上位のデバイスを優先するようになりました。この振る舞いは、`/etc/lvm/lvm.conf` の `multipath_component_detection` オプションでオフに切り替えることができます。

## 第5章 認証と相互運用性

### DNS SRV レコードのサポート

nss\_ldap パッケージに DNS SRV レコードのサポートが追加されました。

### ページ化 LDAP ルックアップのサポート

SSSD は、ページ化 LDAP ルックアップを実行して、単一のリクエストで返される多数のレコードを処理できるようになりました。

### SSSD の新たな設定オプション

Red Hat Enterprise Linux 5.8 のSSSD では、`/etc/sss/sss.conf` ファイル内で、以下にあげる新たな設定オプションをサポートするようになりました。

- `override_homedir`
- `allowed_shells`
- `vetoed_shells`
- `shell_fallback`
- `override_gid`

これらのオプションに関する詳しい情報は、`sss.conf(5)` の man ページを参照してください。

## 第6章 エンタイトルメント

### RHN クラシックのデフォルト選択

**firstboot** でシステムを登録する際、サブスクリプションの箇所は、デフォルトで RHN クラシックのオプションが選択されます。

### サブスクリプション更新後の証明書の自動再生成

サブスクリプション更新後に、新規エンタイトルメント証明書を自動的に再生成できるようになりました。この機能拡張が行われる前は、ソフトウェアの更新やその他のサブスクリプションサービスを引き続き受けるために、お客様が手動で証明書を再生成する必要がありました。証明書の自動再生成により、サービスの中断を最小限に抑えることができます。また、証明書の自動再生成が適切に行われなかった場合には、その旨がユーザーに通知されます。詳しくは、<https://www.redhat.com/rhel/renew/faqs/> を参照してください。

### サブスクリプションスタッキング

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、サブスクリプションスタッキングのサポートが追加されました。これにより、ユーザーは、単一のマシン上のサブスクリプションを組み合わせることで準拠することができます。サブスクリプションスタッキングに関する詳しい情報は、[Red Hat Enterprise Linux 5 導入ガイド](#) を参照してください。

### RHN クラシックから証明書ベースの RHN への移行

Red Hat Enterprise Linux 5.8 には、RHN クラシックのお客様を証明書ベースの RHN に移行するための新たなツールが搭載されています。詳しくは、[Red Hat Enterprise Linux 5 導入ガイド](#) を参照してください。

## 第7章 セキュリティ、標準、認定

### SCAP 1.1

OpenSCAP がアップグレードされ、SCAP 1.1 (Security Content Automation Protocol) 機能を提供するようになりました。

### openssl に追加された DigiCert 証明書

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、openssl パッケージに DigiCert 証明書が追加されました。これは、信頼されたルート CA 証明書を格納する `/etc/pki/tls/certs/ca-bundle.crt` ファイル内にあります。



## 第8章 コンパイラーとツール

### SystemTap

SystemTap は、トレーシング/プロービングツールです。このツールによりユーザーは、オペレーティングシステム (特にカーネル) のアクティビティの詳細な調査と監視を行うことができます。

SystemTap は、**netstat**、**ps**、**top**、**iostat** などのツールの出力と同様の情報を提供します。ただし、SystemTap は、収集した情報に対して、より多くのフィルタリングと分析オプションを提供するように設計されています。

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、SystemTap がバージョン 1.6 に更新されました。

- 名前にハイフン ("-") が付いたカーネルモジュール (例: **i2c-core**) が適切に処理されるようになりました。
- **process.mark** は、プローブパラメーターを読み取るための **\$\$parms** をサポートするようになりました。
- SystemTap **compile-server** および **client** の動作が、以下のように改善、簡素化されました。
  - **compile-server** がスクリプトビルドの結果をキャッシュできるようになり、パフォーマンスが向上しました。
  - **compile-server** と **client** が通信を行い、バージョン情報を交換して、通信プロトコルを適宜に調整し、可能な限り最新バージョンのサーバーを使用します。
  - 非推奨ツールである **stap-client**、**stap-authorize-server-cert**、**stap-authorize-signing-cert**、**stap-find-or-start-server**、**stap-find-servers** は削除されました。
- リモート実行で、**--remote USER@HOST** 関数を複数回指定できるようになりました。これにより、カーネルとアーキテクチャーの個別の設定用スクリプトが自動的にビルドされ、指定した全マシンでスクリプトが一度に実行されます。
- **staprun** ユーティリティにより、同じスクリプトの複数のインスタンスを同時に実行できるようになりました。
- 新たな **tz\_ctime()** 関数により、ローカルタイムゾーンの時刻が出力されるようになりました。
- 軽量の近似的タイムキーピングのための **HZ()** および **jiffies()** 関数が新たに追加されました。

## 第9章 クラスター化と高可用性

### High Availability チャンネルおよび Resilient Storage チャンネルからのパッケージのインストール

Red Hat Enterprise Linux 5.8 ベータ版システムでは、**cluster** および **cluster-storage** パッケージを [cdn.redhat.com](https://cdn.redhat.com) からインストールすると、関連製品である High Availability および Resilient Storage が未インストールと表示されます。Red Hat Enterprise Linux 5.8 ベータ版のインストールメディアを使用して、インストール中にサブスクリプション番号を提供し、**cluster** および **cluster-storage** からパッケージをインストールする方法を推奨します。サブスクリプション番号 (別名: インストール番号) に関する詳しい説明は、以下のナレッジベース記事を参照してください。

- <https://access.redhat.com/kb/docs/DOC-15408>

## 第10章 仮想化

### 10.1. XEN

#### PV ゲストへのホスト CD-ROM 接続

準仮想化ゲストへ仮想ブロックデバイスとしてホスト CD-ROM を接続する機能が強化されました。

#### ゲスト VBD の動的なサイズ変更

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、ホスト側のバックアップデバイスのオンラインリサイズは、Xen ゲスト内の仮想ブロックデバイスにすべて反映されます。

### 10.2. KVM

#### virtio-win への SPICE QXL ドライバー追加

virtio-win RPM パッケージに SPICE QXL ドライバーが追加され、MSI インストーラーの実行を必要としない、ドライバーの簡素なインストールとアップデートが可能となりました。

### 10.3. SPICE

#### 新規 pixman パッケージ

Red Hat Enterprise Linux 5.8 には、ローレベルのピクセル操作ライブラリを提供し、イメージ合成や台形ラスタ化などの機能を提供する、新たな pixman パッケージが含まれています。pixman パッケージは、spice-client パッケージの依存関係として追加されています。

## 第11章 全般的な更新

### PDF/A サポートの強化

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、GhostScript バージョン を 9.01 にアップグレードすることにより、PDF/A—Portable Document Format の ISO 標準バージョン—のサポートが強化されました。

### httpd の `connecttimeout` パラメーター

バックエンドへの接続作成が完了するまでにサービスが待機する必要がある時間を指定するための新たな `connecttimeout` パラメーターが `httpd` サービスに追加されました。このパラメーターを指定することにより、Apache を介して負荷分散を使用する場合に、クライアントに伝達されるタイムアウトエラー数が大幅に削減されます。

### iptables の `reload` オプション

`iptables` サービスに `reload` オプションが追加され、モジュールをアンロード/リロードしたり、確立済みの接続を切断するすることなく `iptables` ルールを更新できるようになりました。

### RPM での `xz` のサポート

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、RPM は `xz` パッケージを利用して、LZMA の暗号化を使用したパッケージの圧縮/解凍処理を行います。

### python-ctypes パッケージ

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、新たな `python-ctypes` パッケージが追加されました。`python-ctypes` は、Python で C データ型の作成や操作を行う Python モジュールで、Dynamic Link Libraries (DLL) または共有ライブラリ内の関数を呼び出します。このパッケージにより、純粋な Python で、これらのライブラリをラッピングすることが可能となりました。このパッケージは、`iotop` ユーティリティの依存関係として機能します。

### unixODBC の 64-bit バージョン

Red Hat Enterprise Linux 5.8 では、`unixODBC64` パッケージを通して、`unixODBC` の新たな 64-bit バージョンが追加されました。また、`unixODBC64` パッケージに加えて、特定のデータベースをサポートする `mysql-connector-odbc64` および `postgresql-odbc64` の 2 つのパッケージも追加されました。サードパーティー製の ODBC ドライバーと相互運用する必要があるユーザーは、`unixODBC64` パッケージをインストールした上で、必要な場合には `postgresql-odbc64` および/または `mysql-connector-odbc64` パッケージをインストールすることを推奨します。

### iotop ユーティリティ

新たな `iotop` ユーティリティが追加されました。`iotop` は、`top` ユーティリティと同様のユーザーインターフェースを採用した Python プログラムで、実行中のプロセスの I/O 操作の継続的な統計を表示するのに使用します。

### BD 対応 gcc44 のための binutils

Red Hat Enterprise Linux 5.8 は、`gcc44` でコンパイルを行う際に `BD` 命令を使用することができる、新たな `binutils220` パッケージを提供します。これによりユーザーは、AMD Bulldozer CPU 機能を活用したプログラムを構築することができます。

### アップグレード後の httpd サービスの再起動

`httpd` パッケージのアップグレード後に、`httpd` サービスが自動的に再起動されるようになりました。

### Kerberos ネゴシエーションのための curl のサポート

`curl` ユーティリティには、Kerberos 認証を使用したリモートマシンとの通信を行うためのネゴシエートプロキシのサポートが追加されました。

### vsftpd の `ssl_request_cert` オプション

vsftpd パッケージに `ssl_request_cert` オプションが追加され、クライアントの証明書チェックを無効にできるようになりました。このオプションが有効化されていると、**vsftpd** は、着信 SSL 接続に対して証明書を要求します (ただし、これは必須ではありません)。このオプション (`/etc/vsftpd/vsftpd.conf` ファイル内) のデフォルトの設定は **Yes** です。

### hwdata パッケージのデバイス ID 追加

hwdata パッケージには、ハードウェアの ID と設定データにアクセスして表示するためのツールが含まれています。以下にあげるハードウェアのデバイス ID が追加されました。

- Intel Core i3、i5、i7 およびその他のプロセッサ (旧コード名: "Sandy Bridge")
- 最新の HP Integrated Lights-Out 4 (iLO) デバイス
- Atheros 3x3 a/g/n (Madeira) ワイヤレス LAN

## 付録A 改訂履歴

<b>改訂 8-2.400</b> Rebuild with publican 4.0.0	<b>2013-10-31</b>	<b>Rüdiger Landmann</b>
<b>改訂 8-2</b> Rebuild for Publican 3.0	<b>2012-07-18</b>	<b>Anthony Towns</b>
<b>改訂 1-0</b> Red Hat Enterprise Linux 5.8 リリースノートのリリース	<b>Thu Feb 16 2012</b>	<b>Martin Prpič</b>